



伊豆半島が世界ユネスコジオパークに認定!

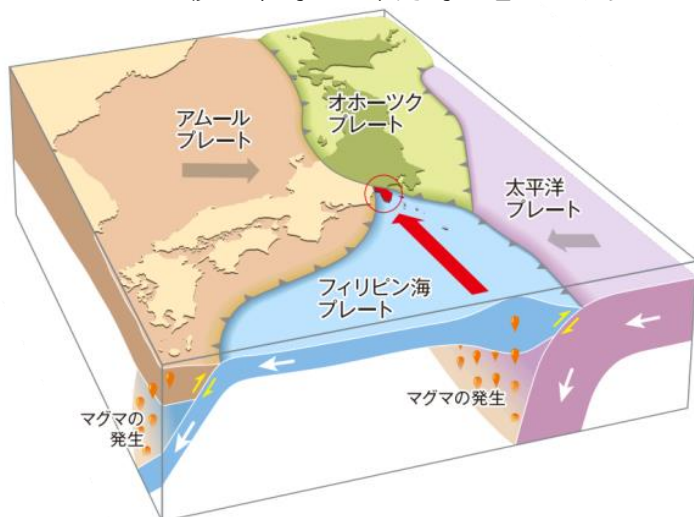
今回のジオパーク通信では、平成 30 年 4 月に国内 9 地域目となるユネスコ世界ジオパークに認定された伊豆半島世界ジオパークをご紹介します。

伊豆半島世界ジオパークのテーマ「南から来た火山の贈り物の」

っていったいどういう意味?

地球の表面はプレートという岩盤におおわれ、それらは互いに動いています。伊豆半島は 2000 万年前、今よりはるか南にあった海底火山でした。この海底火山は噴火を繰り返し、海の上に頭を出してついには島になります。島は噴火を続けながら少しずつ北上し本州に接近、衝突しました。約 60 万年前のできごとです。衝突後も半島のあちこちで噴火が続き、現在の伊豆半島の骨格を作りました。この時にできた“天城山”は川端康成の「伊豆の踊子」の舞台となり、石川さゆりの名曲「天城越え」の歌詞にもある「浄蓮の滝」も観光名所として有名です。また、伊豆が本州にぶつかると大地が盛り上がり、海底火山が地上に姿を現しました。その地層を切り出した伊豆石は、熱に強いので家屋や蔵の建材として用いられ、2015 年に世界文化遺産に登録された葦山反射炉(鉄を溶かす溶解炉)にも使われています。

伊豆半島は日本列島で唯一フィリピン海プレートの上であり、今でも本州方向に動き続けている



そうです。地殻変動で形成された変化に富んだ景観、地熱で温められた良質な温泉、火山灰によって作られた肥沃な土壌、豊富な湧水、深い海の豊かな漁場など、南北約 60km、東西約 40km の伊豆半島は地球活動によって生み出された大地の生い立ちを感じられる魅力溢れるジオパークです。

プレートは岩盤なのに移動していることや、伊豆半島が初めから本州の一部ではなく南から移動してきたというのは本当に不思議ですね。

ジオパークとは、大地の成り立ちと、自然、人間とのつながりを楽しく学ぶことができる地域のこと。
国内には「ユネスコ世界ジオパーク(国際認定)」が 9 地域、「日本ジオパーク(国内認定)」が 43 地域あります。